

六月定例会

平成28年6月定例議会は、6月2日から6月17日までの16日間の会期で開催されました。
一般質問を12名が行い、専決処分7議案の承認が求められた他、「平成28年度一般会計補正予算(第1号)」など15議案を審議しました。

こころにちは

しもすわ 町議 会 です

目次

議決結果	2
議案審査内容	4
陳情、意見書	6
一般質問	7
議会報告会	14
議会雑感・議長をつぶやき・編集後記	16

VOL.12 平成28年(2016)7月22日

編集／広報特別委員会 発行／下諏訪町議会

電話(0266)27-1111 FAX(0266)27-1237

<http://www.town.shimosuwa.lg.jp/gikai/index.html>



こころ合わせて(北小運動会)

一目でわかる議決結果 6月定例会

議決結果

議案第45号	東山田財産区管理委員及び同補充員の選任について	同意(全員)
議案第46号	専決処分事項の承認を求めることについて(専決処分第1号) 平成27年度下諏訪町一般会計補正予算(第11号)	承認(全員)
議案第47号	専決処分事項の承認を求めることについて(専決処分第2号) 平成27年度下諏訪町後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	承認(全員)
議案第48号	専決処分事項の承認を求めることについて(専決処分第3号) 平成27年度下諏訪町温泉事業特別会計補正予算(第2号)	承認(全員)
議案第49号	専決処分事項の承認を求めることについて(専決処分第4号) 下諏訪町税条例等の一部を改正する条例	承認(多数)
議案第50号	専決処分事項の承認を求めることについて(専決処分第5号) 下諏訪町都市計画税条例の一部を改正する条例	承認(全員)
議案第51号	専決処分事項の承認を求めることについて(専決処分第6号) 下諏訪町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	承認(全員)
議案第52号	専決処分事項の承認を求めることについて(専決処分第7号) 下諏訪町固定資産評価審査委員会条例等の一部を改正する条例	承認(全員)
議案第53号	下諏訪町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第54号	小型動力ポンプ積載車等購入契約の締結について	可決(全員)
議案第55号	平成28年度下諏訪町一般会計補正予算(第1号)	可決(全員)
議案第56号	平成28年度下諏訪町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	可決(全員)
議案第57号	平成28年度下諏訪町特別養護老人ホーム事業特別会計補正予算(第1号)	可決(全員)
議案第58号	下諏訪町旧清掃センター解体工事請負契約の締結について	可決(全員)
議案第59号	下諏訪町埋蔵文化財センター改修工事請負契約の締結について	可決(全員)

※主な議案の審査内容は、3～5Pをご覧ください。

陳情審査結果

平成28年陳情第4号	「緊急事態基本法」の早期制定を要望する意見書提出を求める陳情	不採択(多数)
平成28年陳情第5号	義務教育費国庫負担制度の堅持を求める陳情	採択(全員)
平成28年陳情第6号	国の責任による35人学級推進と、教育予算の増額を求める陳情	採択(全員)

意見書案議決結果

平成28年意見書案第3号	義務教育費国庫負担制度の堅持を求める意見書	可決(全員)
平成28年意見書案第4号	国の責任による35人学級推進と、教育予算の増額を求める意見書	可決(全員)

6月定例会 議案等賛否一覧

※議案、陳情について、賛成、反対の双方があった場合のみ表示しています

議員名(議席順)	議決等結果	中村奎司	津金裕美	宮坂徹	田嶋彰	林元夫	青木利子	河西猛	森安夫	中村直亮	金井敬子	中村光良	藤森スマエ	小池忠弘
議案第49号	承認(多数)	斜線	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×
平成28年陳情第4号	不採択(多数)	斜線	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×

賛成者は「○」とし、反対者は「×」とします。議長は採決に加わらないため、「斜線」としています。

議会初日に7つの専決処分を承認

法人町民税引き下げ、軽自動車の環境性能割導入などの 税条例一部改正に、反対意見あり

専決処分とは

予算や条例などを首長が議会の議決を経ずに議会に代わって処分すること。地方自治法で定められており、緊急時で議会を招集する時間がない場合や議会が議決すべき議案を議決しないといつた時などでも認められています。首長は専決処分後、次に開かれる議会で報告して、議会の承認を求める必要があります。当町では、常任委員会への付託はされず、本会議場での議案説明、質疑、討論を経て採決されます。

今回承認を求められた専決処分は、国の法律改正を受けての町条例改正や年度末における会計処理等で、3月末に専決処分されたものです。

専決処分第1号

H27年度一般会 計8909万7 千円の補正

歳入では、予算を上回る見込みとなった町民税の増額等。また、歳出では、車両購入や庁舎耐震改修事業における工事監理委託料で発生した入札差金の整理や、町道春社大門通り線美化工事業、駅前防災広場整備事業に伴う用地購入等各種事業費の確定に伴う整理、及び財源となる国庫補助金・起債等を整理するもの。その結果として、剰余金として見込まれる31000万円を「公共施設整備基金」

へ積み立てる他、ふるさとまちづくり寄附金2件並びに教育費寄附金2件を「ふるさとま

ちづくり基金」、「こども未来基金」へそれぞれ積み立てるもの。

専決処分第2号

後期高齢者医療 特別会計 補正

年度末に確定した後期高齢者医療広域連合納付金を338万9千円増額補正。

専決処分第3号

温泉事業

特別会計 補正

星が丘2号源湯湯揚設備工事費や温泉配湯



春宮前美化できれいに

専決処分第4号

税条例等の 一部改正

システム計装設備改修工事費等の事業費確定に伴う、920万円の減額補正。

「軽自動車税」に係る

地方税法の一部改正に伴い、自動車取得税を廃止し、新たな環境性能割を創設する（H29年4月から）。法人町民

税の税率を、現行9・7%から6・0%へ引き下げる。「特定一般

用医薬品等購入費を支払った場合の医療費控除の特例」を制定する（H30年度分から）。「わ

がまち特例」の創設に伴い、固定資産税の課税標準の特例割合を定める規定を整備するものなど。

賛成

「国の法改正に沿っての改正であり、理解できる。」

反対

「大企業が利益を上げればやがて国民の家計も潤うという政権の理論は、既に破綻しているのでは。その政策に沿っての法人税の引き下げには、反対。自動

車の環境性能割も高性能の車が優遇されることになり、景気の悪い情勢の中では買い換えは容易ではない。」

専決処分第5号

都市計画税条例 の一部改正

電気事業法等の一部改正に伴う条項ずれを改正するもの。

専決処分第6号

国民健康保険税 条例の一部改正

地方税法の一部改正に伴い、国民健康保険税の課税限度額の引き上げ及び軽減判定所得の基準を見直すもの。

専決処分第7号

町固定資産評価 審査委員会条例 等の一部改正

行政不服審査法の施行に伴い、所要の規定を整備するもの。

旧諏訪養護学校跡地取得へ

公園整備等に住民の声を

総務経済常任委員長 中村 光良

議案審査

議案第54号

小型動力ポンプ購入契約の締結

小型動力ポンプ積載車3台と、小型動力ポンプ1台を購入契約するもの。
第3分団四王と第6分団町屋敷には積載車を、第7分団社東町には積載車とポンプを購入するもの。町車両更新計画（購入から25年）に沿った更新。
5社による指名競争入札の結果、町内株式会社千代田ポンプ機械が落札。税込みの入札予定価格2757万円に対し、落札価格は2516万円。

質疑では 積載車の仕様は9人乗で見積基準は1台当たり800万円。ポンプの見積基準は150万円。入札参加は町内1社、諏訪地区1社、県内3社であった。下取りはなく、登録抹消処理まで含めた契約価格である。現在町には、ポンプ車8台、積載車は軽1台を含め6台配備されている。
討論では 近年、自然災害も多く、火災災害も含めて必要との討論があり、挙手全員で可決された。



購入される小型ポンプ積載車

議案第55号 平成28年度下諏訪町一般会計補正予算（第1号）

(1)旧養護学校跡地の購入

社会資本整備交付金の内示を受けたことから、町土地開発公社が所有する旧諏訪養護学校の跡地を購入するもの。

歴史的風致維持向上計画に沿って、春宮から高木地区までの歴史文化保存事業の一貫。土地購入予定額は7685万円。測量調査設計委託料745万円、不動産鑑定宅料71万円、総額8501万円。



旧諏訪養護学校跡地

財源は事業債3560万円、地域開発整備基金繰入金977万円、国庫補助金3964万円。

質疑では 歴史的風致維持向上計画に沿って、歴史文化保存事業として高木地区のこの土地を取り上げた。同計画には小公園もうたわれている。隣接地には急傾斜地もあり、この土地の防災効果も考えている。公園整備内容については地元の声、要望を聞いていく。損失補てんについては、不動産鑑定の結果を見て、用地価格が確定したところで検討する。

(2)自治総合センターのコミュニティ事業助成金を受け、町屋敷町内会に250万円、湯田4町町内会に120万円、また、地域防災組織育成助成金200万円を第8区自主防災会に補助するもの。その他に県補助金97万円を受け、一般財源との財源振替を行う。

質疑では 防災リーダー養成講座は、

町職員と区長から推薦された方半々ずつ、計40名くらいで6月4日から週末を利用して進行中。避難した人々が、より健康的に避難生活を支えられるよう、宿泊型訓練も行う。

(3)ふるさと町づくり寄附金4件63万円を賜り、ふるさと町づくり基金に積み立てる。H20年からの寄附金総額は、97件2169万円。

質疑では H27年実績で寄附金は、全県77市町村の中で下位の方であり、諏訪6市町村でも最下位である。

寄附金に対し返礼品などの費用及び住民税控除額との差異は、約332万円の赤字となった。

討論では

①コミュニティ事業助成金や地域防災組織育成助成金の採択を受け、地域自治や防災への備えが充実している。

②旧諏訪養護学校の跡地購入は、歴史的風致維持向上計画との関連性の説明を受け、よく理解できた。③橋梁点検では、国の交付金内示の増額を受け、点検計画が拡大された。

④防災諸費で、地区防災計画策定事業や防災リーダー育成研修事業を進められることで、地域防災への意識高揚と組織強化に期待する。

等々の賛成討論があり、挙手全員で可決された。

27年度ふるさと納税見込み

32件 2,097千円	
(長野県77市町村中60位)	
寄付額	2,097
返礼品などの費用	274
住民税控除額	5,144
差し引き	-3,321

旧清掃センターを解体 介護施設開設へ補助

生活文教常任委員長 青木 利子

議案第53号 諏訪湖クリーンセンターの試運転の開始に伴う、町の廃棄物処理及び清掃に関する条例の一部改正

町の名称では「生活系一般廃棄物」としていたものを、岡谷・諏訪両市に合わせ「家庭系一般廃棄物」と統一する。7月から燃やすごみの処理は行われなくなるため、町清掃センターで処理するものを「埋め立てごみ及び資源物」にすること等。

統一化されていない項目については、できる限り統一化を図る方向で三市町間で一致している。本稼働後の実績により統一化の議論が進むものもある。



取り壊す旧清掃センター

討論では、「統一化に向けては、困難もあるが、しっかりと議論してよりよい方向に進むことを要望し賛成」との議論があり、挙手全員で可決された。

議案第55号 消費者行政活性化事業などに県補助金の交付決定

県補助金の交付決定を受けて、消費者行政費では、講演会の年間2回開催や啓発等経費21万5000円の増額と、

消費者問題解決力強化に係る経費など13万8000円を財源振替するもの。戸籍住民基本台帳費では、国からマイナンバーカード交付事業費補助金が交付され、地方公共団体情報システム機構へ支払うもの。

介護保険事業では、認定調査業務に携わる正規職員の退職に伴う嘱託職員1人分の賃金、共済費232万2000円を増額。また、南信勤労者医療協会が、今年12月に開設予定の小規模多機能型居宅介護施設の建設整備等に、県補助金の3572万6000円を町を經由して交付するもの。

討論では、「マイナンバーカードについて、個人情報保護を要望。介護施設の増設は歓迎。介護者の養成を望み賛成」との議論があり、挙手全員で可決された。

議案第58号 ダイオキシシン類等のごみ露防止対策

旧清掃センター解体は、作業中の環境調査や環境測定を実施し、周辺環境に配慮のうえの施工計画。廃棄物は建築リサイクル法等のガイドラインに従い、適正に処理又は再利用される。入札は、事後審査型一般競争入札で、庫昌土建株式会社が2億9592万円で落札、工期は平成29年3月31日。

工事期間中は、募参りやごみの持ち込みに来る人に配慮し、警備員を配置するなど業者に安全面の協力を求めるとのこと。

討論では、「大変大きな金額だが、安全対策を行い、地域住民への対応をしっかりして工事を進めることを要望し、賛成」との議論があり、挙手全員で可決された。

議案第59号 儀象堂奥の埋蔵文化財整理室の躯体を利用し、地下1階、地上2階の展示室に改修する工事



埋蔵文化財センターイメージ

入札は事後審査型一般競争入札で、株式会社六協が、1億4904万円で落札。工期は平成29年3月26日。

工事は、現在の躯体を利用するので、大きな振動等は起きにくい。耐震については、躯体の根元補強で構造計算上問題がないこと等が説明された。

討論では、「期待される町おこしの施設。周囲に配慮した工事を要望して賛成」との議論があり、挙手全員で可決された。

陳情、意見書の審議結果

陳情第4号

陳情者 アジアと日本の平和を守る長野県中南信フォーラム

「緊急事態基本法」の早期制定を要望する意見書提出を求める陳情

平時体制のまま、外部からの武力攻撃、テロや大規模自然災害等の国家的緊急事態を乗り切ろうとするには、初動態勢が遅れ様々な支障が生じる。よって、国民の生命・財産・安全が確保される対応を可能にする、あらゆる事態に備えた「緊急事態基本法」の制定を国に求めてほしいという内容です。

付託された総務経済常任委員会では、国民を守

るための国家としての危機管理は必要と考えることから「採択」を求める意見と、テロと自然災害をひとくくりに論ずるのは、問題。また、現行の災害対策基本法等の確実な運用こそ優先されるべき等の「不採択」とする意見が出され、採決の結果「不採択」となり、本会議に報告されました。

本会議での採決の結果、委員長報告どおり「不採択」に決しました。

陳情第5号

陳情者 長野県教職員組合諏訪支部

義務教育費国庫負担制度の堅持を求める陳情

義務教育の機会均等とその水準の維持向上のために設けられた義務教育費国庫負担制度の国庫負担は、財政難を理由にかつての2分の1から3分の1に引き下げられ、地方財政を圧迫する状況が続いています。これでは、住んでいる地域によっ

て教育の質に差が生じる事態も生まれかねません。

この陳情は、来年度予算編成にあたり、自治体の財政状況による教育格差が広がらないよう、義務教育費国庫負担制度を堅持・拡充を国に求めてほしいとの内容です。全会一致で採択しました。



意見書案第3号

義務教育費国庫負担制度の堅持を求める意見書

陳情第5号の採択を受け、生活文教常任委員会が提案。国に対し、国庫負担制度を堅持し、負担

率を2分の1に復元することを求めるものです。

陳情第6号

陳情者 長野県教職員組合諏訪支部

国の責任による35人学級推進と、教育予算の増額を求める陳情

いじめや不登校や、生徒指導上の様々な問題への対応など多様化する学校現場において、教員が子どもと向き合い、きめ細やかな対応をするために、少人数学級は欠かせません。すでに長野県では少人数学級を実施していますが、義務標準法の裏付けがないため、教員配置に多くの課題が生じています。また、少子化が進む中、自治体独自の

複式学級解消のための教員配置が、重い財政負担になっています。

この陳情は、国の責任での「35人以下学級」の実施と、複式学級解消のための学級定員数の引き下げを求めてほしいという内容で、全会一致で採択されました。



意見書案第4号

国の責任による35人学級推進と、教育予算の増額を求める意見書

陳情第6号の採択を受け、生活文教常任委員会が提案。国の責任において早期に35人学級を推進するための教職員定数改善計画の策定・実行と、

複式学級の学級定員引き下げを求めるものです。

施策を問う

ここが聞きたい!
一般質問

町文化財の現品調査確認を
御柱祭の総括について
限られた人的資源の活用について
防災対策の推進強化 実効性ある対応を
食べ残しゼロに 「よいさ運動」を展開
初の18歳選挙に向けて
後期高齢者医療制度 現状と課題は
健康スポーツゾーン 健康増進に大好評
サイクルツーリズムを呼び込んで
25年ぶりの朗報 温泉井戸掘削に成功
この先、どうなる国民健康保険料
行財政経営プラン 検証とこれから

森 安夫 議員 …… 7p
田嶋 彰 議員 …… 8p
中村 直亮 議員 …… 8p
小池 忠弘 議員 …… 9p
河西 猛 議員 …… 9p
青木 利子 議員 …… 10p
藤森スマエ 議員 …… 10p
津金 裕美 議員 …… 11p
宮坂 徹 議員 …… 11p
中村 光良 議員 …… 12p
金井 敬子 議員 …… 12p
林 元夫 議員 …… 13p



町文化財の 現品調査確認を



森 安夫 議員

移住定住促進室 の業務

Q 移住定住促進室が新設された。どのような業務が集約されたか。また、どこの市町村も移住定住に力を入れているが、下諏訪町の特徴ある施策は何か。

A 移住定住、空き家など有効活用することを引き継ぎ、雇用や起業等の労務、商工業務と連携した事業として進める。仕事・住まい・暮らしに関わる情報提供や支援を、ワンストップで提供するための情報集約と整理を行う。

量販店撤退後は

Q 岡谷への大型店開

設に伴い、下諏訪から衣料や家電量販店が撤退する。空き店舗が増えるが、情報はあるか。

A 県道岡谷下諏訪線沿いで駐車場もある立地条件の良い場所であり、今後も情報把握に努め動向を見守りたい。

ものづくり支援センター 新年度事業

Q ものづくり支援センターのH27年度の総括と、H28年度の戦略実行計画は。

A 従来の連携支援に加え、個社支援にも力を入れる。個別開発への補助金、人材育成、専門家派遣などを主に行っていく。

文化財の現品確認

Q 文化財の現品確認の実施、適切に管理されているかなどを調査してほしい。

A データベース化、公開、定期的な維持管理作業など多岐にわたっており、博物館職員だけでは難しい。教育こども課全体での調査班の編成、外部委託などを検討する中で、早い時期に実施したい。



雑草の中のジジ穴古墳

甲州街道は「甲州道中」 に表記を統一すべき

Q 下諏訪町は観光施策の一環として、歴史的背景からも甲州街道は「甲州道中」に統一すべきだ。町のキャッチフレーズから見直したら如何か。

A 諸説ある。多岐にわたって検討研究したい。

御柱祭の総括について



田嶋 彰 議員

り感謝の言葉も頂けた。

環境美化隊の

効果は

Q 御柱祭期間中、初めて行った環境美化隊

の効果はどうだったか。

A 実行委員会の清掃部会を担当した衛生自治会、事務局及びトイレ・ごみ管理を担当した動員職員が「環境美化隊」と記した黄色の腕章を着け、観光客・氏子からごみの回収等美化活動に努めた。山出し、里曳き翌日の一斉清掃でもほとんどご

シオンなどの経費。合計すると、収入支出がほぼ同額となる見込み。曳行時間の遅れ、通行規制等苦情もあったが、前回に比べ木落し坂周辺の混乱を避けるための事前通知等、運営計画を立てた事で大きな問題もなく、お客様よ



木落し坂観覧席

みが無い状況のため、ごく短時間で清掃を終わる事ができ、環境美化隊の活動は大変効果があったと評価できる。

健康づくり

について

Q 健康づくりに意欲的な高齢者への補助として、ウォーキングシ

ューズ購入の補助を検討してほしい。

A 高齢者の健康づくりに対する関心が高いことから、運動講座で、ウォーキングを安全に効果的に行うための指導等の支援は引き続き行っていくが、健康づくりに、その他の運動等に取り組みたい方との公平性の観点から、ウォーキングに特化した補助は難しい。

なお予防講座・健康講座等への参加をポイント化し、商連で還元できるような仕組みづくりについては、研究・検討したい。

限られた人的資源の

活用について



中村 直亮 議員

若者世代の

困り込み

Q 若者の流出を食い止める手段の一つとして、週末は下諏訪に住

み、平日は東京で働く、いわゆる「二地域居住」の生活スタイルを、小

中学生に教育していく事は出来ないか。

A このような課題について、共に考え合う機会を増やしたい。

Q 人事異動に関し、不具合が生じていると

感じる。消防の広域化と同様、専門職でも諏訪広域で人事交流を行なえば、短い周期で異動が可能と考えるが。

人材の有効活用

Q 3年ないし4年が

適正と考えるが、その時々々の部署の業務量と人員配置の状況を考慮し、住民サービス低下にならないよう、適正配置の判断をしていく。

Q 人口20万人ないしは10万人以上でなければ国の目が向かず、カネやヒト、アイデアが来ない。平成16年に頓挫した「合併」について、どのように考えるか。

A 平成の大合併により、不具合が生じている地域は沢山ある。合併について全否定はしないが、地域住民からの盛り上がりは未だなく、機は熟していない。国の方針に振り回されることなく、状況を注視していきたい。

流出出身者の

困り込み

Q 平成25年度内閣府

が行った「高齢期に向けた備えに関する意識調査」によると、高齢期に住みたい住居の立地条件として「スーパーなどの近くであること」が際立っている。

買い物条件が不十分な地区を多く抱える下諏訪町から、高齢者が流出するのと比例し、その子どもたちは下諏訪町へ戻って来なくなる

と予想されるが、今後買い物環境を充実させる考えはあるのか。

A あざみ号の充実や福祉タクシーなどの施策を組み合わせながら、高齢者の住みやすいコンパクトシティを目指していく。



防災対策の推進強化 実効性ある対応を



小池 忠弘 議員

熊本地震教訓は

Q 近年大規模地震の発生が多発し、被害も大きい。諏訪地域も、大規模地震の起こる可能性が高いと指摘されている。町としての、熊本地震からの教訓と課題は。

A 当地域は対策強化指定もされており、一層防災に努めなくてはならない。町だけで対応できないことを、どう解決していく

かが課題。大規模災害発生時は職員の登庁もむずかしく、その見直しも必要。公民協働においても、年齢構成



6月に実施された避難訓練

の変化も考慮した見直し、NPO、NGO等の団体との協力も必要。**地域防災の強化** どう高めるか

Q 町は防災士の資格取得に力を入れており、心強い。一方、地域防災組織は区運営中心で継続性に課題もあるが。

A 地域防災力の強化は大事なこと。継続性は、地域によって様々。40人を越える防災士は地域の避難所を運営する。行政は罹災証明の発行等を行なうなど役割を分担してやっても行うことが大事。地域の自主性を高めたい。

仮設住宅どこに

Q 災害時、早急に必要となる応急仮設住宅建設。町は、どこを候補地に考えているか。

A あすなる公園、総合運動場、南小の3ヶ所を県に報告済み。赤砂崎も利用していく。

住宅耐震化推進 実効ある施策を

Q 町の住宅耐震化率を高めるため、実効性ある施策を。また、低価格・短期間で設置できる「耐震シェルター」等の設置補助を。

A 町の耐震化率は、71・4%（国82%、県77・5%、諏訪地域75・7%）。H25年調査で「耐震化するつもりがない」は48・1%。広報活動の充実を図る。現地建て替え補助を、今年度から実施している。来年度からの耐震工事補助上限60万円への上乗せや、耐震シェルターへの補助を検討していきたい。

食べ残しゼロに 「よいさ運動」を展開



河西 猛 議員

Q 食べ残しなどの食品ロスゼロを推進すべきと思うが、いかがか。

A 食べ残しゼロ「よいさ運動」を展開する。▽「よ」余分に買わない、作らない
▽「い」いつもの習慣
▽「さ」さあ、おいしく、食べきろう！

チラシを全戸配布し、町民が一致団結し食品ロス削減、ゴミ減量に取り組み機運成熟につなげたい。

簡易トイレの 設置について

Q 当町における災害対応型マンホールトイレの設置状況は。

A 赤砂崎公園に下水道直結型8基、便槽式14基を設置。今後、同公園の右岸エリアに便槽式10基、駅前広場に便槽式5基の計15基を整備する計画。



下水道直結型マンホールトイレ

Q 耐震改修及びシェルター設置に対する補助を行う考えはないか。

A シェルターの普及は進んでいないが、有効なもの。現状では補助制度がないが、耐震化補助の上乗せを含め、検討していきたい。

Q フォレストベンチ

工法の導入を。**A** 県や他県の施行実績を注視しながら、効果が期待できる場所の採用などを考えていきたい。

Q 過去の災害を教訓とし、保育園や学校、町民セミナーなどの取り組みの予定は。

A 町と教育委員会の連携による「ジュニア防災リーダー研修会」を予定している。保育園では、毎月1回避難訓練を実施し、絵本や紙芝居などを利用して基本的な行動を理解させている。また、毎年、諏訪広域防災講演会を6市町村の持ち回りで開催している。

Q 町の災害備蓄品はどう活用しているか。

A 人口から割り出し水や米、ビスケットなど2150食を目安に備蓄。消費期限が迫ったところで、防災訓練などで試食用として使っている。

初の18歳選挙に向けて



青木 利子 議員

ように収集の時間を見計らってのゴミ出しは、避けていただくように周知を図る。

まちづくりへの参加が政治への関心の一步

Q 湖周2市1町で、約70億の巨額な費用を投じた湖周クリーンセンターが完成間近だが、今後の予定は。

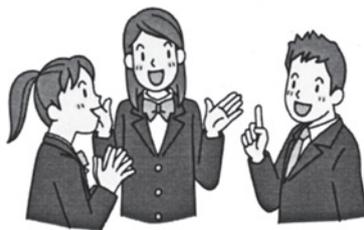
A 7月1日からの試運転に伴い、燃やすごみの一部搬入が開始される。7月8日に火入れ式、11月30日に竣工し、12月1日に完成式典が予定されている。

Q ゴミの出し方は、変わるのか。

A 12月1日の本格稼働から、直接受入開始。搬入方法、手数料は今まで通りで変わらない。地区収集の朝8時までに、出すルールも同じだが、収集時間が30分早まる場所もあるため、時間厳守を。今までの

日常的に学校・家庭内で政治の話題があるかで変わってくるのでは。「主権者教育」は。

A 若者の政治意識を高めることが大切。町が長年取り組む未来議会は、子どもたちが地域や社会について主体的に考える機会になっている。



Q 初の18歳選挙で、当町の対象者数は。

A 7月10日の参議院選挙から、投票年齢が引き下げられる。住民基本台帳からみると、7月11日時点で、18歳が169人、19歳が170人で計339人。

Q 新たな有権者への投票の働きかけは。

A 県下一斉の啓発呼びかけ等に参加する。

Q 10代の親である40代の投票率が50%に達していないが、どう考えるか。

A 直近の町議選での40代の投票率は41・35%。選挙への関心は、

Q 18歳選挙について、町長は、どう考えるか。

A 若い方たちに政治に関心をもってもらうことが重要。当町では地域教育力を高める中で、まちづくりに積極的に加わる子ども達の姿が見える。それが政治参加に繋がりと、投票率に反映されるといい。

後期高齢者医療制度 現状と課題は



藤森スマエ 議員

見えにくい。広域化についての町長の見解は。

A 小さい自治体では財政が厳しい。広域化で財政基盤が安定するというメリットはある。

マイナンバーの進行状況は

Q 通知は全員に届いたか。カード申請者数、交付枚数、申請の多い年齢層は。顔写真の準備が負担になっていないか。

A 通知は残198人分だが、宛名なし等を引くと残38人。申請数は2017人、交付済は852枚。人口に対する申請率は9・69%で、6市町村で一番高い。写真付き身分証明書を持たない方が多く、各種手続き簡略化のため申請を進めたことにより60〜80歳代の申請率が68・2%と高い。顔

写真は、原則個人で用意していただくが、相談に来庁される方には、職員が写真を撮ってプリントアウトしている。

御柱祭り振り返り

Q 駐車場料金3000円は高いという声があった。また、駅での案内が交通規制のみのお知らせで、町を歩く人がいなかった。実行委員会会長としての、町長の振り返りは。

A 駐車場料金は、安全対策、各種費用の高騰で設定した値段だが、次回検討事項としたい。「歩く人がいなかった」との話を聞き、商栄会と意見交換の場を持った。今回は、早い段階で、地元の方も含めた協議の場を設定したい。

Q 県広域連合で運営しているため、住民に



色々課題があったのは事実。一つずつ検証していく。相対的には多くの方に来町いただき、楽しんでいただけた祭りだったと思う。

健康スポーツゾーン 健康増進に大好評



津金 裕美 議員

休日、夜間も 講座開催を

Q スポーツゾーンを活用した講座の人気は非常に高い。ゆたん歩の歩行浴プールを活用した各種講座も含めて土・日や夜間の開催もしてほしいが。



歩行浴プール活用の講座

A 地域やグループ、団体等で企画して要望があれば、講師を派遣

していきたい。歩行浴のプールは午後5時までの使用だが、時間延長の声はなくなった。

現在は、専門の健康運動指導士が1名。現体制では対応は難しいので、増員について検討していきたい。

Q 健康スポーツゾーン構想のプロジェクト検討状況と全体スケジュールに、変更はないか。また、県への投げかけは。

A プロジェクトは、これまで5回開催済み。健康スポーツゾーンとしてあるべき姿を主眼に議論中。艇庫の規模、位置関係、誰もが利用したくなる施設として検討中。

7月までに、町長に中間報告を提出予定。年内に今後の方針決定、その後プロポーザルで具体化の予定。来年度

実施設計、H30年度着工は予定どおり。

県に対しては、プロジェクトの結果を踏まえ、必要事項を要望していく。

御柱祭の経済的波及効果の調査

Q 諏訪大社上社下社の御柱祭がもたらす地域経済波及効果や観光客の満足度などについての調査結果が、来年2月に発表されるとのこと。具体的な調査内容、方法は。

A 諏訪広域連合が実施する予定。既に聞き取り調査は、祭りに来場した方に実施済み。

5月中旬以降に各種団体、自治体等のヒアリング。前回御柱祭の調査結果との比較も含め、まとめられる予定。

Q 町御柱実行委員会の総括は、いつに。

A 現在、各部会で反省点をまとめている段階。決算も含めて、9月末までにまとめる。

サイクルツーリズムを 呼び込んで



宮坂 徹 議員

教育委員会制度 への対応は

Q 八月には新教育長の任命が行われるが、首長は教育長任命・罷免、総合教育会議の招集と教育行政への責任が明確になる。町長の考え方は。

A 昨年度から総合教育会議を開いている。以前から教育長とは定例的に会議で情報を共有し「下諏訪力創造」等で教育にも反映してもらっている。いじめ等の諸問題に対し、教育委員会だけで対応できないこともある。そこに行政がどう関わり、より責任を明確にして対応するか、一層よい

呼び込んで

関係を構築していきたい。

自転車愛好者の 受入れについて

Q 近年サイクルツーリズムがブームになっている。サイクルリング人口は、H24年度のアンケート調査では、76.9万人となっている。その年代層は30・40代を中心に幅広い。湖周サイクルリングロードの整備が始まるなかで、自転車愛好者を諏訪湖に、ビーマスラインに呼び込むことはどうか。



A 当町は諏訪湖を含め全体が観光エリア。楽しい旅のスタイルを提案する中で、地域で各種整備が必要になる。信州ビーマスライン連携協議会では、エコドライブ事業の一つとして提案されればと思う。

Q 自転車の売り上げで高価なスポーツ車が伸びており、盗難防止にストアバイクというロッカーが注目されている。飲食店、旅館等にロッカーを設置すればライダーを呼べるが。

A 設置場所やスペースの問題を含め、サイクルリングロード整備の進捗状況を見ながら研究したい。

Q 観光のデザインとして、町長はどう考えるか。

A 重要な視点だ。諏訪全体としてどう呼び込むか考えたい。ロッカーの設置は、旅館等に対し、補助制度を設けて設置を促す方法を検討していきたい。

25年ぶりの朗報 温泉井戸掘削に成功



中村 光良 議員

補湯開始に向け 今後の手順は

Q 高浜運動公園内での新温泉井戸掘削で、当初計画の湯温60度、毎分450ℓを確保できる結果を確認できた。温泉事業での既存の源湯に先細りの不安があり、その解消に25年ぶりの朗報となった。

A 1次事業、2次事業への補湯開始に向けた今後の手順はどうなるか。

A 県からの揚湯ポンプに関わる動力装置の許認可を待ち、配湯センターの設計施工や配湯管の布設を進めて1次事業に200ℓ、2次事業に250ℓの補

湯にむけ、H29年度

中の補湯開始ができるよう準備をしていく。

Q 湯温94・2度という恵まれた結果が出た。即希釈では惜しい気がする。高温を有効利用できる可能性はないか。

A 補湯が目的の掘削であったので、まずは目的達成へ事業を進める。温泉熱利用については他地域の取り組みを参考に研究していく。



掘削後公開された高浜温泉井戸

おんばしら館 運営への考え方

Q おんばしら館よい

さを発展的に運営するための考え方は。

A 統括管理者として町職員OBの館長を置き、シルバー人材センターから常時3〜4名の派遣を受ける。観光振興局を中心に他施設と連携をもたせ、諏訪エリアや県の施策の中でもPRしていく。旅行者、エージェントにも情報発信する。

赤砂崎の多目的 広場の活用は

Q 整備が進む赤砂崎防災公園多目的広場は、多くの人に活用していただきたい。町としてどんな利用を想定しているか。

A 町民企画のイベントでの活用や、やすらぎの空間として楽しんでほしい。学校や保育園のPTA行事や、遠足の目的地、休憩地としても紹介していく。HPや広報で幅広く利用を呼掛けていきたいとも計画している。

この先、どうなる

国民健康保険料



金井 敬子 議員

国保税 今年度据え置き

一人50000円の国保税引き下げが可能としている。支援金は当面継続されるので、国保税引き下げに使ってほしいが。

Q 今年度の国保税率が据え置かれることに、胸をなでおろしている。基金、繰越金の現状は。

A 医療給付費が予想ほど伸びなかったため、基金を取り崩さずに済み、一般会計からの3000万円を加えて4332万円に。繰越金は、3776万円の見込み。

Q H27年度分国からの保険基盤安定支援金981万円余は、すべて療養給付費として使われたのか。

A そのとおり。

Q 国はこの支援金で



国保のパンフレット

で20位と高く、保険料は64位と低いことから、現行の保険料との開きが出るものと予想される。急激な保険料上昇を緩和する方策を国が検討しているようなので、注視したい。

福祉避難所 数の確保を

Q 熊本地震に学び、福祉避難所の数の確保と、施設側の準備を進めておく必要がある。

A 今後も医療給付費に充てる考え。国保税を6年間上げないことは、評価してほしい。

Q H30年度予定の国保広域化で、保険料はどうなるのか。

A 保険料の算定ルールは現在検討が進められていて、現在と比べてどの差がどれ位になるかはまだ不明。当町は、医療給付費が県下

A 老人福祉センター、花田養護学校に加え、今年3月「ケアセンター赤砂」と協定を締結した。小学校区に1ヶ所が望ましいというガイドラインはクリアしているが、今後も町内の高齢者向け施設との協定締結を進めていく。

Q 「福祉避難所運営マニュアル」は。

A H23年に職員用マニュアルを作成してあるが、不足もあるので見直しを図る。

行財政経営プラン 検証とこれから



林 元夫 議員

赤砂崎開発を 民間活力で

Q 赤砂崎におけるエコタウン構想は、行財政経営プランではどのような位置づけか。事業規模等は。
A 保有財産の適正化を図る。売却の方向で、本年度中に計画。

Q 民間活力を活用して、開発をしては。
A 公園施設整備により、資産価値が上がる。いよいよ本格的に進める。行政だけではできないので、民間の力を頂きながら開発する。

行財政経営 プランの検証

Q 公債費の計画と実施の推移を見ると、公

債費削減の目標達成が確認できる。要因は。

A 償還利子が20分の1になったことなど。

Q 起債残高は、大型

事業の履行と共に上昇。計画と実績との差異は
A H22年度の約12億5千万円をピークに、H20年度以降、計画以上の起債残高になっている。H27年度では約95億円となる予定で、計画より約5億円多くなりそう。その要因は。

A 保育園改修工事など事業規模が増大。また臨時財政対策債（国

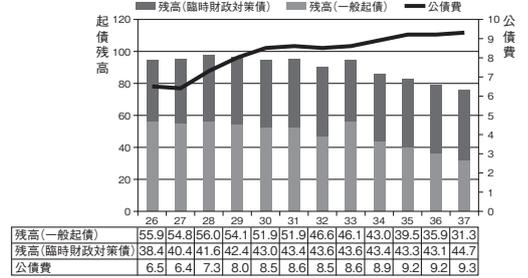
が将来補てん）の増加で、H27年度では40億4千万円となり、起債

残高の42%を占めた。
Q 経営プランによる

人件費削減の成果は。

A サービス低下をしない人数で、約10%削減。人件費を2億7千万円削減した。

一般会計の起債残高と公債費の推計（億円）



耐震化推進の ため補助金を

Q 住宅の耐震化の現状は、県の耐震化率
A 77・5%、S55年以前の建物では30・6%。下諏訪町の耐震化率は71・4%、S55年以前の建物では。

A 28・7%。

Q 耐震化を促進することは、市町村の使命

資金的な理由で耐震補強できない、との調査結果。新たな防災・耐

震に対する補助金を。
A 今の補助限度額の60万円を上乗せするなど、前向きに考える。

議員による

「読まれる議会だより」 を目指して

広報特別委員会 視察報告

5月24・25日の1泊2日で研修視察を行いました。視察場所は、全国的にも評価の高い山梨県の昭和町（しようちょう）と埼玉県北部に位置する寄居町（よりいまち）です。

4回開催し、原稿は事務局が集めて、業者が割付けるといった方法をとっており、業者のクオリティに依存していました。

企画記事では、「議員記者が行く」といった、議員自ら各種団体に取材に行き、写真も豊富な記事を掲載しており、努力が実を結び、全国町村議会広報誌コンクール表彰につながったものと思えました。

寄居町では、割付、特に写真と余白の使い方が大変多くありました。町広報は「結果を知らせるもの」、議会だよりは「議論や質疑を掲載し「審議経過をお知らせするもの」と捉

えているといふ編集方針や、特集記事の豊富さに目を見張るものがありました。特に「18歳選挙権」の特集や寄居出身の有名人を取上げるなどは、これからの特集企画の参考になりました。

二町の編集は業者の力量が大きく影響していますが、当町は「議員の議員による議会だより」をこれからも継続していきます。また予算が少なくても、「読まれる議員による広報」を理想に、ますます精進していきます。

（林副委員長）

3町の比較（概数）

	下諏訪町	昭和町	寄居町
人口	21,000	19,400	34,800
一般会計予算額	84億円	70億円	116億円
議会だより発行部数	8,000部	8,200部	13,000部
発行回数	4回/年	4回/年	4回/年
平均ページ数	16頁	22頁	16頁
議会だより予算（一冊あたりの単価）	64万円（20円）	520万円（158円）	400万円（76円）

ダンボの耳をめざして 聞きます！みなさまの声

今年1月29日文化センターにおいて、議会報告会を開催しました。紙面の都合で、出された意見やアンケート結果を示す機会がありませんでしたので、ここに掲載させていただきます。

今年の議会報告会は、町民の皆様のご意見をお聴きする会にするよう企画させていただきました。テーマを4つに絞り討論していただき、貴重なご意見をいただきました。活発な内容でしたので、すべてを掲載できませんが、ご了承くださいます。これからも、引き続き議会にご理解ご協力をお願いいたします。
(議会運営委員会)

① 産業・観光について

歴史・文化の宝を生かして

- ・古いものの復元も重要だが、町民が住みやすい町、住んで良かった町が観光の基本。高齢者がちよつと休めるところが欲しい。
- ・歴史を大切に、虫の多く住むような自然を大切にしながら、安心して暮らせるまちづくりをお願いする。
- ・工業にもっと力を入れて欲しい。工業にお金をかけるべきだ。工業は力、商業は顔であるから、知恵を出し合い頑張らないといけない。
- ・まちづくり協議会に参加しているが、観光が発展することは、町に誇りを持ち、光を当ててい



議会報告会全体会

- ・くことだ。子どもの教育にもつながる。
- ・40歳前まで県外にいたが、住んでみると歴史・文化のクオリティが高い。いくつかの宝を生かしたい。このような聞く機会を作ったことだけでも良い。
- ・高齢者が高齢者介護をするなどの雇用創出や道路補修でも材料代と少しの予算でやってみようなどの方法もある。議員も研修に行くのではなく、来てもらう町にすべきだ。
- ・伝統や文化を継承する若者に支援をして欲しい。棚木場まで観光コースにするなど、通年観光を目指して欲しい。
- ・鳥獣被害対策の良い方法はないか。

② 教育について

こどもの安全確保を

- ・子どもの見守り事業で、ボランティアの人が減少している。関係者の意見交換の場が欲しい。
- ・クローズアップしすわに、ボランティアのページを設けて欲しい。
- ・保育園役員の成り手がなく、町との連携も良くわからない。要望を町にあげる機会を設けて欲しい。
- ・親が子供を教える家庭教育は重要だ。
- ・いじめではないが、学校になじめず休んでいる子もいる。
- ・屋根付き町営プールを作って欲しい。
- ・子どもの登下校時、スクールゾーンの徹底により、安全確保をして欲しい。



テーマ②教育についての分科会

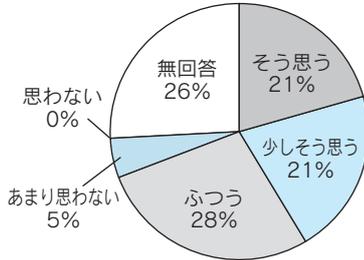
議会 アンケート結果 (抜粋)

より「開かれた議会」を目指します

懇談会形式の報告会は、内容等充実していたと思いますか。

そう思う (21%)
 少しそう思う (21%)
 ふつう (28%)

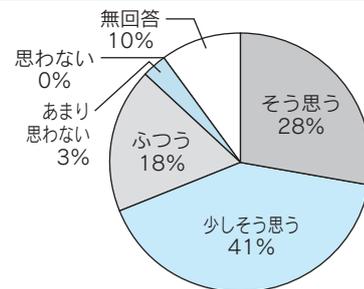
合計70%の方が普通以上という評価になりました。



下諏訪町議会は、「開かれた議会」だと思いませんか。

そう思う (28%)
 少しそう思う (41%)
 ふつう (18%)

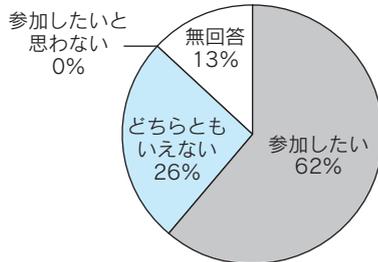
合計81%の方が「開かれた議会」だと評価しています。



また議会報告会があれば参加したいと思いますか。

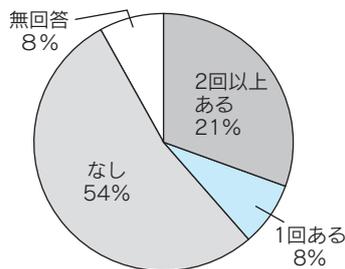
参加したいが62%でした。

これからも工夫をして参加者を増やしていきたいと思えます。



議会の傍聴に来られたことはありますか？

「なし」が54%もあり、これからも広報に努めたいと思えます。



議会の傍聴を試みませんか。

傍聴席を改修し、居心地の良い席にいたしました。

来て見て、ぜひご意見をお聞かせください。

③ 防災について

緊急時のサイレンを鳴らせ

- ・街灯のLED化や公衆便所の清潔さに感謝している。
- ・土石流が心配。対策の強化をして欲しい。
- ・緊急時、夜間や休日は特にサイレンが欲しい。
- ・危険地域での住民の意識改革が必要だ。
- ・地域に適した訓練をする工夫をして欲しい。

④ 福祉について

認知症サポーターを増やして

- ・健康な人に、町からの仕事を。例えば、和田峠周辺の清掃など
- ・少子高齢化は問題。子育て支援、医療費の窓口無料化を。子どもの貧困や若者の非正規雇用などに、町の支援を。
- ・「老老介護」が増えている。「家で暮らしたい」と願っている人に、応えていくべきだ。
- ・「保育園も余裕があります」、「住む家もあり

ます」など子育て世代の呼び込みを。
 ・「認知症サポーター」を増やしてほしい。
 ・社協の仕事をしてみて、ボランティアの方が少ない事と、ボランティアの方自身が高齢化していることを感じている。

議会雑感



下諏訪商工会議所
会頭
濱 康 幸

議員の皆様には、日頃より商工会議所活動に深いご理解ご協力を頂き、御礼申し上げます。御柱が終わり、張り詰めた気持ちが少し解けたような今日この頃ですが、世界に誇る祭りとして諏訪の心が一つになり、様々な発信ができたと思います。産業界では流出する企業もありますが、

世界の日亜化学が諏訪に根を下ろすことになりました。日亜さんは諏訪圏メッセを3年間ご覧になり、諏訪地域の技術集積を評価され、進出されたと話しておられました。これからは人口減少、少子高齢化、後継者不足など経済環境もめまぐるしく変化し、税収の減少、インフラの維持管理など、財政もますます厳しくなることが予想される中で、諏訪圏域が強い連帯感を持ち、御柱のごとく一つになり諏訪の発展を支えていく時代であると思います。5年、10年先を見据えた政治判断がより大事になってくると思います。議員各位の益々のご活躍をご祈念申し上げます。

編集後記

「あれは、質問したの？町長の答えは、どうだったの？」と、町の方から声をかけて頂く場面があります。議会での一般質問を気にかけて頂くことを、大変うれしく感じる時です。と同時に、伝えることの難しさも痛感します。大抵一般質問は、一人が数項目を通告して一時間行いますから、例えば、この「議会だより」でも、限られた紙面の中に全てを集

約することができません。しかも、自分では「これを最も伝えたい」と思う項目が、誰にとっても「知りたい」ものとは限りません。悩ましいところですね。「何をどう伝えるか」、私たちの模索は続きます。(金井)

広報特別委員会

委員長 金井 敬子
副委員長 林 元夫
委員 宮坂 徹
委員 森 安夫

議長のつづやき

一つ聞いて 一つ答える



議長 中村 奎司

東京都の舛添知事が辞職しました。その経過、内容については皆さんご存知のとおりですが、議会の進め方については、何かもどかしい思いをしております。

というのは、議員の一番の権能を発揮しうる代表質問・一般質問において、議員も知事も原稿を読んでいて、相手の顔を見て質問答弁をしていなかったということです。これを見ると都議会では、質問内容をすべて通告してあり、知事は予定した答弁を原稿通り読んでいるのではないか、そんな印象を受けました。これは少なからずの驚きでした。

当町の一般質問は、通告事項があり、その具体的内容を要旨として箇条書きに

して通告するだけです。ただ数字を問う場合は、前もって言うておいた方が、いいよと指導していますが、あとは基本的なことにガチンコの勝負になります。



対面して真剣勝負

もちろん議員は質問内容を原

稿にしてありますが、それは1回目だけで再質問は答弁内容についての原稿なしの質問になります。これが一問一答、一つ聞いて一つ答えるという質問方式です。町側と議員の真剣勝負だと思っています。至らざる点多々ありとは認識していますが、これは誇ってもいい伝統だとも感じています。

都知事の件に限らず、地方の首長・議員にとっては信頼を損なうような事例が多発しており、誠に申し訳ないという気持ちで一杯であります。がしかし、下諏訪町議会は違う、これが私たちのプライドです。そして、町民の皆様にはそれをしっかり監視し、判断していただきたい、そう願っております。